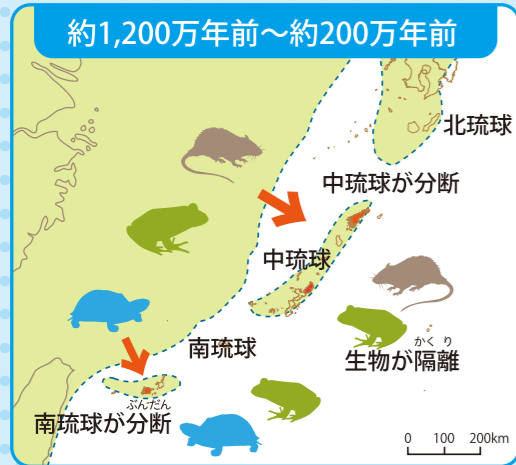
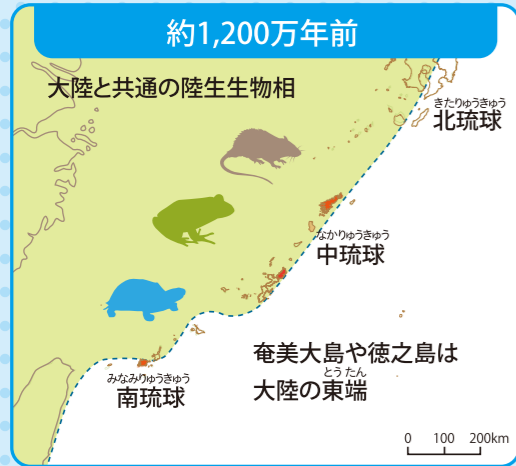


1000万年以上の時を経て

地史と固有種

希少な生き物が生き残った奄美大島・徳之島



遺存固有種とは？

奄美群島は、かつてはユーラシア大陸や日本本土と陸続きでしたが、約200万年前までに大陸から切り離され、現在の島へと分かれています。大陸と離れた生き物の中には、大陸にいた同じ種類や近い関係の種類は絶滅しましたが、奄美大島と徳之島では、環境の変化に対応したり、天敵がいなかったりしたことなどから、生き残ることができたものがあります。このように、元々はいろいろな場所にいた生き物が、環境の変化などにより**特定の地域だけで残ったものを「遺存固有種」と**呼びます。

例



アマミノクロウサギ



ケナガズミ



新固有種とは？

大陸から切り離された後、奄美大島と徳之島は近くの島々とくっついたり離れたりしながら現在の姿となり、生き物はそれぞれの島の中で、異なる種類へと分化していきました。このように、元々1つの種類が、**様々な地域に分かれて違う種類に進化したものを「新固有種」と**呼びます。

例



トクノシマトゲネズミ



アマミトゲネズミ



オビトカゲモドキ

トゲネズミの種分化とは？

トゲネズミ属は、奄美大島のアマミトゲネズミ、徳之島のトクノシマトゲネズミ、沖縄島北部のオキナワトゲネズミの3種類しかいません。初めは3種類とも同じトゲネズミとされていましたが、**遺伝子などを研究した結果、異なる種類であることが分かりました。**中琉球が小さな島々へと分かれていく中で、3つの島でそれぞれ異なる種類へ進化したのです。

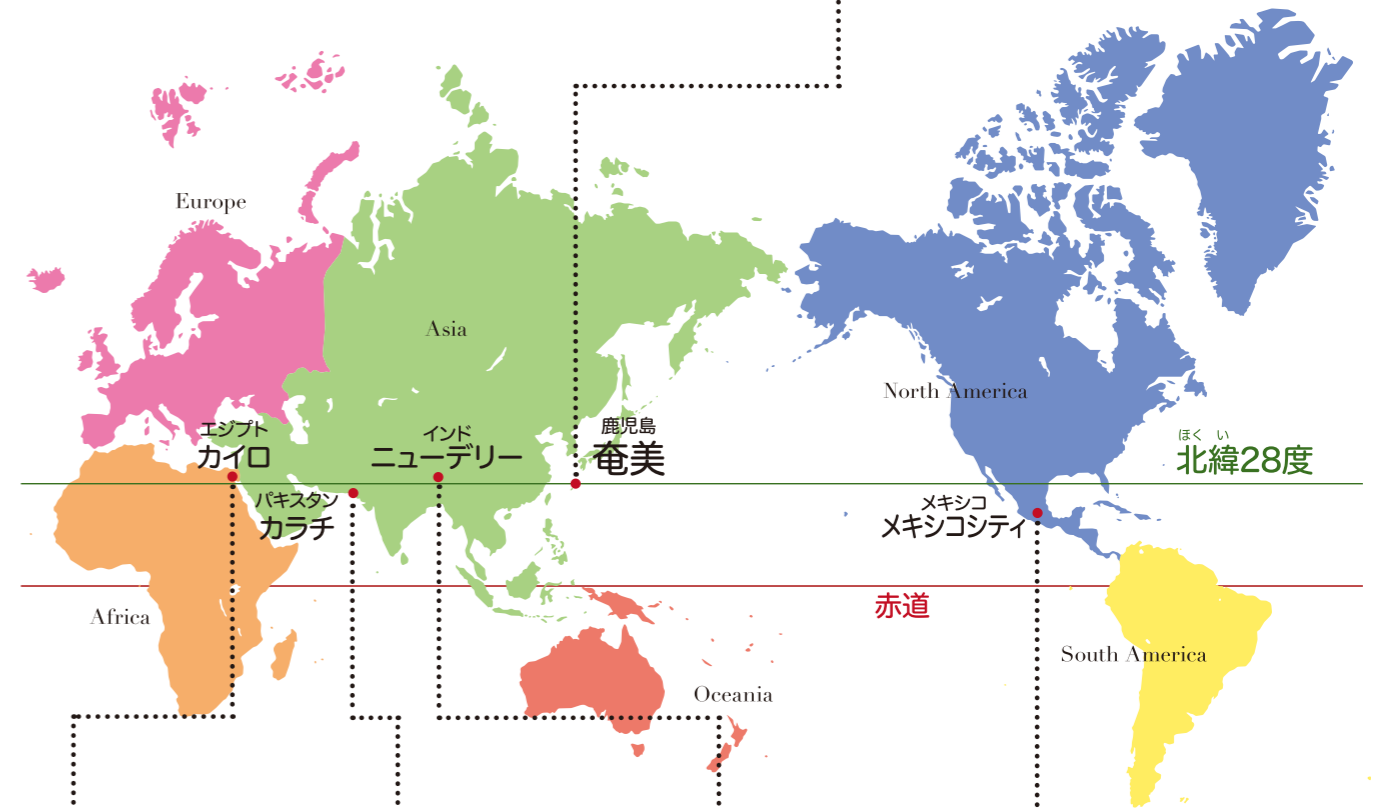


特異な気候

亜熱帯海洋性気候

特異な奄美の環境

奄美群島は高温の夏と比較的温和な冬がある亜熱帯気候に属します。世界の亜熱帯地域の多くは、砂漠などの乾燥地帯になっていますが、群島のそばを流れる暖かい黒潮とモンスーン(季節風)が雨をもたらし、常緑広葉樹の森が発達しており、多くの種類の生き物の住みかとなっています。



エジプト カイロ



平均気温 22.3℃

年間降水量 29.7mm

パキスタン カラチ



平均気温 27.1℃

年間降水量 196.1mm

インド ニューデリー



平均気温 25.3℃

年間降水量 782.2mm

メキシコ メキシコシティ



平均気温 17.2℃

年間降水量 1,003.2mm